

◆司会

それでは、ただいまから市長定例記者会見を始めさせていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

◆市長

今日も、2つのLifeを守るというコロナ対策の静岡市の方針、“いのち”と“くらし”の立場からの話題提供でございます。それでは、まず“いのち”のほうですね。新型コロナウイルス感染症対策、ワクチンの接種について、お伝えいたします。おかげさまで、昨日まで7日連続で、静岡市内の新規感染者が0となっております。この要因の一つとして、これは全国的な傾向ですけれども、ワクチンの接種率が高まっている、加速化されているということにあらうかと思えます。そのことについての現況と、今後の課題もあらうかと思えます。そのことについて、パネルを使って説明をいたします。

まず、現況ですが、1回目と2回目の市内のワクチン接種の進捗状況についてです。静岡市のワクチン接種率は、一昨日、10月27日時点で、1回目が全市民のおよそ76%、2回目が62%となりました。これは、とにかく急ピッチで加速化を進めた、市民の皆さんに協力をいただいたおかげさまで。1回目の接種率については、国、そして県の平均接種率を上回ることができました。やっと追いついた、そして、追い越したというところまでたどり着きました。市の第4クール終了時の目標設定を11月7日としてあるわけですけれども、2回目の接種を終える市民の割合、1回目と2回目というのはセットで予約していますので、3週間後に自動的に2回目も接種できるわけですね。ですので、11月7日には、2回目の接種を終える市民の方は、およそ54万人となり、接種率は全市民の77%。そして、接種対象者の85%に上るということを見込んでおります。

次のスライド、お願いします。このスライドは、年代別の1回目のワクチンの接種状況を示したものです。全国的には若者の接種率が伸び悩んでいるという傾向があり、私も懸念をしておりますが、静岡市につきましては、これ、一つ大きな特徴だと思えますけれども、既に若い世代の接種率も70%を超えております。もちろん国の平均値よりも高くなっております。若い世代の接種が始まりました第4クールに入って、予約、接種が順調に進んでいること、また、市民の皆さんが積極的に若い方々への接種を啓発してくださっていることのおかげだろうというふうに思っています。なお、市の第4クールまでの受け付けは終了しておりますが、県が運営をしている「もくせい会館」の会場は、11月2日まで1回目の接種を、なお受け付けており、当日は予約が無くても接種が可能であるということも付け加えさせていただきます。また、市行政においては、11月3日から、新たに12歳になるお子さんや、何らかの理由で1回目、2回目、まだ

接種を済まされていないという市民の方を対象にした予約も始めますので、まだ接種を全くしていないという方は、ご利用をご検討いただきたいと思います。

次のスライド、お願いします。さて、今後の課題は3回目の接種をいかにスムーズに進めるかということにあります。われわれ、初動でミスが重なり、いろいろ教訓を得ました。その教訓を踏まえて、今度こそスムーズにやっていくというふうに検討を進めております。この3回目の接種も、国の方針を受けてのスタートでありますけれども、現時点で想定される対象者は、2回目の接種を終了された方のうち、おおむね8カ月以上経過した市民の方を対象といたします。まず、医療従事者の方の接種を先行させます。その後、一般市民の方々の接種開始を、高齢者など早い方で2月中旬頃を想定しております。そして、一般の全世代の市民の方々への接種券の発送は1月中旬から、2回目の接種時期に応じて順次お送りする予定です。このことを踏まえ、スムーズに予約できるよう、高齢者の皆さんへの丁寧な予約支援の方法ですね、しっかり準備をしていきたいと思っています。詳細なスケジュールや手続きなどについては、今後示される国の方針を踏まえて改めてお伝えをいたしますので、よろしくお願いいたします。こちらが、“いのち”を守る取り組みとしてのワクチン接種についての説明です。

もう一つの話題ですね。今度は“くらし”、経済を取り戻すための施策としての「東海道歴史街道観光推進プロモーション事業」についてです。とにかく経済を開いていかなきゃいけないという一環で、実施をするものであります。従前からご承知の通り、ないものねだりよりもあるものさがし、静岡の歴史資源を活用して、それを観光施策につなげていこうという取組をしてまいりました。「あるじゃないか、旧東海道が」と。これをもっと、街道観光というコンテンツとして磨き上げようという取組は、コロナ前から進めていたわけですね。そして、それも、従前は6宿2峠と言い方をしていたんですけど、今は連携中枢都市圏を形成していますので、旧島田宿まで合わせて、10宿あるわけですね。10宿2峠ということになって、裾野を広げていこうということで、より広域的に旧東海道の魅力を5市2町の連携中枢都市圏の取組として、街道をつないだ観光商品の造成やプロモーションを、観光誘客に結び付ける施策を実施してきました。一つ一つの宿場町について言うと、例えば、蒲原宿では、「仮称トライアルパーク蒲原」が整備をされつつあります。府中宿では、葵舟の運行が始まりましたし、2年後の歴史博物館の整備も進んでおります。また、丸子の宿では今年度、「駿府の工房匠宿」がリニューアルオープンして、これまで地道に観光交流文化局が取り組んできた、さまざまなコンテンツがようやく花を開き始めております。きっとコロナ後、インバウンドが回復しますので、ここに誘客できることになろうかと期待をしております。一方、宇津ノ谷峠を越した藤枝市とは、日本遺産を共同申請して採択をされた、旅ブームを起こした弥次さん、喜多さん駿州の旅が2020年に認定されておりますので、例えば、大旅籠柏屋なんていうのは、知られざる観光資源だったわけですね。これも一緒になって、広域的にプロモーションをしていきたいというふうに思っています。これも本来ならば、

もっと早くやりたいと、昨年準備をしておったものなんですけれども、コロナ禍で去年の秋のタイミングでは、これは控えようということになったわけですね。ただし、1年実施は延びましたが、逆に、それだけ仕込みの期間が長くなりましたので、より付加価値が高い施策に仕上がったかなというふうに思っています。今回、われわれの取組の中で培った人脈、「全国街道交流会議の全国大会を静岡市で開いてほしい」という要請があって、私たち、それを受け入れたわけですね。そのときの友情の中で、今回は逆に、この主催団体であるNPO法人全国街道交流会議の代表理事や事務局長に、大変お世話になりました。彼らが、東海道の起点として人脈を持っている日本橋地区の老舗の飲食店の経営者の皆さん、親方の皆さんと我々を繋いでくれて、東京日本橋と私たちの宿場町を、旧東海道として繋ぐという橋渡しをしてくださいました。その施策が、今回打ち出す「日本橋しずおか食堂」という施策であります。

ご賛同いただいた日本橋地区の老舗飲食店 18 の店舗で、5市2町の特産品を使った特別メニューを、手間ひま掛けて開発をしてくださいました。これを期間限定で提供をしていくということです。お客さんの評判が良かったら、これ、定番のメニューにもするよ、ということも言われているそうであります。期間は、来月11月8日の月曜日から12月7日の火曜日までの30日間あります。食材は、例えば、徳川家康公が愛したお茶とか、江戸前ずしに欠かせない駿河の国のわさびとか、駿河湾でしか水揚げされない桜えび。もうご承知のことだと思いますけれども、これを一流の日本橋の調理人の方々の技を生かして、メニューを作ってくださいました。参加していただく老舗の一部を紹介しますと、徳川慶喜公の移住に従い、江戸を離れたと、そして、駿府で商いをされたこともあるという1850年創業の「割烹 嶋村」さん。あるいは、創業300年以上の歴史を誇り、焼津市に工場をお持ちのかつお節メーカーにんべんが展開している、飲食部門の「日本橋だし場 はなれ」、これ、COREDOがオープンしたときに大変話題になりましたが、この日本橋だし場はなれさんですね。あるいは、はんぺんとか蒲鉾の製造販売一筋300年の「神茂」さんですね。こんな老舗の皆さんが今回、協力をしてもらいました。

このうち、神茂さんには、由比の桜えびを使った揚げ蒲鉾を今回開発していただき、期間中、デパート、三越の日本橋本店でも販売してもらいます。また、来月8日には地元由比で、生産者である漁港の皆さんなどを対象にした試食会も予定をしております。ぜひ、こちらの取材もお願いいたします。なお、私自身も11月17日の水曜日に日本橋を訪れて、老舗の皆さんにお礼かたがた、そこで開発されたメニューを試食させていただくということをしていきたいというふうに思いますので、どうぞご承知おきください。総じて参加していただく老舗のお店には、古くからからの上客、顧客、得意客がついており、ブランド力はもちろん、発信力も絶大であります。私どもの食材を通じて、静岡中部5市2町の魅力に触れていただき、継続的な交流や新たな取引につながることを期待しております。

老舗を訪れるお客さんというのは限定的ですから、日本橋のスペースをお借りしましたので、そこで、一般の不特定多数の方々にも、旧東海道の魅力のキャンペーンのプロモーションを行います。この期間中は、東京メトロの三越前駅のコンコースにて、旧東海道をテーマにしたパネルの展示を行います。ここは聞くところによると、平日、約4万人の方々を通る通行量があるという場所にありますので、その広報効果というのは大きいと思います。静岡県中部5市2町の歴史や文化、自然などを、多くの方々にご覧いただきたい、絶好の機会になるかと思えます。

この街道連携事業は、連携中枢都市圏5市2町が一丸となって取り組んでおり、江戸時代に東海道を往来した人々の交流が400年の歴史を超え、本事業を通じて再現されることによって、東海道の起点である日本橋と静岡の観光交流の推進を図り、翌年度以降も継続して実施していきたいと願っております。こちらで、経済対策、“暮らし”を取り戻す、インバウンド回復のための下支えの取組をしていくつもりであります。私からは、本日は以上です。

◆司会

それでは、ただ今の発表項目につきまして、ご質問をお受けしたいと思えます。いかがでしょうか。SBSさん、お願いします。

◆SBS

SBSです。よろしくをお願いします。

◆市長

お願いします。

◆SBS

市長、伺いたいことが、すいません、この発表事項で2点ございます。一つ目は、ワクチン接種の件なんですけれども、先ほど若い世代の接種率が非常に高いと、確かに数字的にその通りだとは思いますが、先ほど、「市民の啓発などもあって」というふうにおっしゃっていましたが、ごめんなさい、もう少し具体的に若い世代の接種率が高い理由の分析というのを、教えていただきたいのが一つ。

もう一つは、日本橋しずおか食堂の中で単語が出てきてしまったので、お伺いしたいのですが、桜えび、今日、秋漁始まったのですが、残念ながらあまり量が獲れていないというのが、やっぱり続いているということなんです。桜えびを守るというか、今後どうしていきたいかというのを改めてお聞かせ願えますか。

◆市長

2点質問をいただきましたので、順次答えたいと思います。1点目は、実務的に所管の局長に答えてもらいますけれども、私自身も夜回りをして、街に出ている若い方々に、「ワクチンを打ちましたか？ぜひ行ってください」と、今の時間はステイホームで自粛してほしいという呼び掛けをさせてもらいましたし、職員もさせてもらいました。また、ご家庭でも、教育委員会等も頑張ってくれて、若い方々に対して接種率をとということで、私立の学校も含めて、ずいぶん集団接種にご協力もいただきましたし、そんな学校や家庭の協力もあったかなというふうに思います。補足が、もしあれば、お願いいたします。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長です。ちょっと補足です。おおまかには、今、市長お話しいただいたとおりの内容で、夜回りをする中でも私たち、街中で声掛けをさせていただくということと、あと、教育委員会を通して、接種についてのご案内をさせていただいたり、あと、民間さんの、この前R&Oのほうもご協力いただきましたけれど、そういう中で若い方への接種ということについても、いろいろな機会の中で、呼び掛けをさせていただいたところがございますので、そういうことで、うちのほうについては、この結果としては、国の接種率よりも静岡市においては70%を超える、今、接種状況にあるのかなというふうに分析しております。

◆市長

二つ目ですけれども、今回、私どもが用意をする桜えびの量というのは、ちゃんと確保しておりますので、責任を持って駿河湾産の桜えびというものを提供できると思います。ただ、今後の桜えびについては、所管のほうから現状と課題について答えていただく必要があるかと思えます。よろしくお願いします。経済局、今日、来てる？いないんだ、その辺は、後で実務的に取材をしていただければ、ありがたいです。それを、ひとつ橋渡しをお願いします。

◆司会

はい。その他、いかがでしょうか。静岡新聞さん、お願いいたします。

◆静岡新聞

静岡新聞です。ワクチンのことで、すいません、伺いたいのですが、若い方の接種も増えているということで、全体の接種も国とか県を上回って、追いついて、追い越したということなのですが、このグラフを見ても急激に伸びていると思うのですが、この辺の、なぜ、最初、なかなか厳しかったというお話ですが、伸び方、どういうふうな理由で、こういうふうに急激に伸びたかということと、あと、3回目の接種なのですが、例

例えば、予約方法、電話とかネットであるとか、あるいは接種会場とかというのは何か、今、分かっていることありますでしょうか。

◆市長

これは最初、静岡市は遅いじゃないかというおしかりを多数いただきまして、私自身もものすごく危機感を持って、市長中心に保健福祉長寿局だけでなく、全局連携して、このワクチン接種率の加速化に向けて取り組むようにということを号令掛けた、その結果の成果だろうというふうに思っています。それまでは保健福祉長寿局だけの数字だったんですけれども、デイリーで毎日、午後4時すぎには前日までの接種率がどうだったかという数字を、市と県と国と並べて私のところに報告をしてほしいという作業しました。

そして、一日一日伸びているか、離されているかということをチェックして、そして、細かく指示をした結果、保健福祉長寿局の職員も頑張ってくれたと思います。むしろ、自負があるところでもありますので、これは局長に何とか市民の皆さんにも、最初は迷惑を掛けてしまったけれども、ここまで追いつきましたという思いの一端をお話しいただきたいと思います。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長でございます。このように皆さんご協力いただきまして、現在、国、県の第1回目の接種については、追いついてきたという状況でございます。第4クールについても、例えばツインメッセ等でも1日18レーン、3,000人を超す接種の状況を実施できたり、というふうなところもあったのかなと思っています。

3回目の接種、これからというところでございます。予約の方法についても、今、冒頭、市長のほう話がありましたけれども、スムーズな予約ができるような支援の体制、あるいはシステム等についてもしっかり準備していきたいというふうに思っています。

それから、会場等については、今、どこがいいのかというところで確認をしているところですが、城東だとか清水区役所の他に3、4カ所ぐらいの集団接種会場プラス今までどおり地域のお医者さんの所へ、かかりつけの先生に打っていただける体制についても医師会あるいは医療機関と連携を取りながら、準備を進めていきたいというふうに思っています。

◆静岡新聞

そうすると、集団接種と個別接種を並行してやっていくという…

◆保健福祉長寿局長

そうです。

◆静岡新聞

対象人数とかというのは、何か、今、決まっていることはあるのでしょうか。

◆保健福祉長寿局長

年度内の接種というふうなことを考えると、予算要求、ちょうど補正の予算時期なのですけれども、14万を超えるぐらいの数が3月までに、という対象だろうかなどは思いますけれども、国のほうで接種期間が概ね8カ月というふうなところがございます。その解釈がもう少し詳しく国の方から示されることによって、それについては多少増減するのかなと思っておりますけれども、いずれにしても接種ができる体制についてはしっかり予算的なことも含めて準備を進めていくというふうに考えております。

◆司会

その他、いかがでしょうか。先に第一テレビさん、お願いいたします。

◆第一テレビ

よろしくお願いします。第一テレビです。静岡市では、ワクチンの希望する方への接種を11月7日までに終えるということでしたが、今、2回目の接種率見ると62%で、これ、国だったり県の平均を下回っていると思います。7日までに終える見通しというのは立っているのでしょうか。

◆市長

先ほど見通しは見込んでいるというような表現でお答えしましたけれども、より詳しく局長から説明させます。

◆保健福祉長寿局長

2回目の接種についても、これから数字が追いついてくるのかなというふうに思っておりますけれども、先ほど第4クール、今やっているのが11月7日で終わりますけれども、それ以降についても、例えば「1回目、2回目、まだ打ってないよ」という方だとか、2回目が何らかの理由で打てなかった方についても打っていただく場として、11月7日以降に新たに、また接種する機会を設けさせて、予約の方もさせていただくというふうに準備を進めていますので、できるだけ多くの方に多くの機会を提供できる体制は、このまま引き継いで維持させていきたいなと思っています。

◆第一テレビ

すいません、このまま追加質問、7日以降の接種のスケジュールというのは、もう出て

いるんですか。

◆保健福祉長寿局長

実際は接種の日程としては11月11日から打てるようなことで、予約についても11月3日から予約を取っていただけるような形で、今、準備を進めさせていただいています。前回それは投げ込みをさせていただいて…

◆第一テレビ

そうだったんですね。予約枠ってどれぐらいですか。

◆保健福祉長寿局長

概ね、今、3,000から4,000ぐらいの規模感で考えております。

◆第一テレビ

ありがとうございます。

◆司会

その他、いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

NHKです。ワクチン接種について、市長、冒頭で「初動でミスが重なり、その教訓を踏まえて」とおっしゃいましたが、改めてどういったミスがあったとご認識されているか、その教訓は何か、お聞かせいただけますか。

◆市長

それ、報告書を提出してもらいましたので、そこに複合的な要因が重なったんだろうなというふうに受け止めております。システムの不調というのも、その一つでありますけれどもそれだけではなくて、最初、予約の枠が埋まらなかったで「ここまで対象を広げて発送してもいいだろう」という判断をして、どんと発送したら殺到してしまってパンクしたとか、さまざまな要因があるんですね。その辺りも報告書に基づいて詳しく説明をしてください。

◆保健福祉長寿局長

保健福祉長寿局長です。今お話しいただいたように、当初、システムの集中によって、1回止まったというふうなこともございました。それで、なかなか予約が入らないところをもって年齢を拡大したところ、今度は枠を超える予約をいただいた状況があったと

いうところが反省かなと思っております。

それから、第3クール、夏の時期に加速をしようというときにワクチンの供給とのずれと申しますか、国の方からの供給が少なくなってきたというような、思いとモノの入るところの不具合と申しますか、その辺があったというふうな反省がございます。

あと、予約についても電話の方で、当初、高齢者の方々については、電話がなかなかつながらないということもあって、その場では予約の支援をするような会場を設けさせていただいたということもございます。そういうふうなことで今後打つ3回目の接種については、そのようなことも踏まえて、反省を踏まえて、準備をしっかりしていきたいなというふうに考えております。

◆NHK

すいません。私、知らなかつただけなのですけど、報告書って公開されています？

◆保健福祉長寿局長

うちのほうでまとめたものだけなので公開はしていません。

◆NHK

我々に、取材として、資料としてご提供いただくことはできますか。

◆保健福祉長寿局長

検討させていただきます。

◆NHK

この場で、この後、検討というのは、いつ、どういう段階で、できれば、すぐにでもいただきたいぐらいなのですが…

◆市長

私、報告書という言い方、誤解を与えてしまったなと思います。やっぱりPDCA回さなければいけないという中で「何でこうなってしまったのか」ということを、きちっと私のところに報告を寄せてほしいということですので、報告書として公式に何かの機関を通じて決定したものではないということをおし添えます。

やっぱり失敗の原因が分からなければ、次、改善ってできないじゃないですか、いわゆるPDCAを回すという意味で、そういう意味で。また、もう、とにかく毎日、目の前の仕事をこなすので精いっぱいだった、アップアップの状態が所管にあったわけですね、それはそれとして、しかし遅くなった原因というのをきちっと冷静になって私のところに報告をしてほしいと、それを私自身がちゃんと把握して、こうしよう、ああしよう、

先ほど静岡新聞さんにお答えをしたように、ある意味トップダウンで、この4月に首長直轄組織ができましたので、それを活用して局長会議やったと、そういうことでありますので、ご承知おきをお願いしたいと思います。

◆NHK

黒塗りにしなきゃいけないような、隠すような文書じゃないですよ。また後で、その点をお願いします。

それと、東海道観光推進について伺いますが、歴史博物館、この中に位置付けられていますけれども、市長、先月、私ども、歴史博物館の3億円の赤字、毎年ランニングコストがかかるという見通しを報道したときのコメントとして「子どもたちが学ぶきっかけになるのであれば、それはプライスレスだ」という説明されたと思います。ここで、また経済を開く取組の位置付けとして出てくるというのは、結局、この施設は教育のための施設なのか、お金を稼ぐための施設なのか、お金を稼ぐというのであれば、市の持ち出し3億円を上回る経済波及効果あるという見通しがあるのかどうか、いかがでしょうか。

◆市長

今日の東海道歴史街道事業におけるの発表について、そこ、本質ではないと思います。そこを読み違えないでほしいんですけれども、これは今回、1カ月間限定でやりますけれども、先ほど、これから花開こうとしているという一つの計画として歴史文化施設は2年後です、オープンはね。ですから、今回の東海道歴史街道事業に、これが直接効果を発するというものではなく、こういうことも進んでいますよ、ということで私が宿場町別に紹介をただけでありますので、その点、よろしくお願いいたします。

◆NHK

時期的にも当然そうだと思うのですが、では、なぜここの資料に位置付けられているのかという疑問は持ちますけれども、いずれにしても3億円の赤字を超えるような経済波及効果があるという試算があるわけではないですかね。

◆市長

この前も申し上げました通り、やっぱり文化行政ということは、プライスレスな価値を市民の皆さんに提供しなきゃいけないわけですね。御社は、例えば「Eテレ」というコンテンツも持っているじゃないですか、Eテレというのは、昔、教育テレビと言って、すごくいいコンテンツを開発していた。だけど、ビジネス的には全く大赤字ですよ。ただ、御社は受信料でやっているから、ああいう質の高い教育番組、文化番組が提供できるわけです。そこが、民間の放送局との決定的な違いです。ある意味の公共放送ですから、私どもも公共政策をやっただけで済まないといいなということですので、そういう3億

円うんぬんの指標だけで我々の判断はしないということを基本中の基本ですので、ぜひご承知おきください。

◆NHK

市長おっしゃることはよく分かるのですが、報道後、視聴者から、この赤字を垂れ流すことを看過することは許し難いという意見をいただいていることも事実ですので…

◆市長

ですから、もう少し深い報道をしていただきたいというふうに思います。

◆NHK

純粹に価値が、またできたもの、それ自体もレプリカが家康の甲冑二つと愛用の扇、パース図のど真ん中にきている展示物がレプリカだということで、これ、本当に価値があるのか、人を呼び込めるのかという疑問が出ているわけですがけれども、入館料収入にしても、私が最初出した 7,000 万円という数字から、その後 8,300 万円という数字に増やしているようですがけれども、一方で市長は前回、「最初はコロナの影響でスモールスタートになるかもしれない」とおっしゃった、どっちなのか、一方で入館料収入増えるような積算をして、一方でスモールスタートかもしれないとおっしゃる、結局、鉛筆をなめているだけなのか、どう計算していらっしゃるのでしょうか？

◆市長

これから、その辺も経済状況の回復具合あるいは経営状況、いろんなことを勘案して総合的に設定していかなければいけないというふうに承知しています。

◆NHK

市長、先ほどのお話しだと、採算は、もうこの際3億円だろうが4億円だろうが赤字幅がどうだろうが、それは問題ではないというご認識？

◆市長

もう少し、今の市政は新しい公共経営、そうは言っても清水病院なんかもそうですけれども、とにかく赤字を親方日の丸で放置している経営は駄目だよ、というような新しい公共経営、ニューパブリックマネジメントというのは、この10年間、私がずっと市の職員に口酸っぱくして言っていたことでもあります。ですから、公設公営ということではなく、できるのならばPFIの事業で民間企業も参画をしてもらって民間活力、彼らのノウハウとか知恵とか、そういうコンテンツを作ろうとって葵舟の事業なんかも民間の企業とできるようになったわけですね。ですから、そういう経営感覚ということは、

これからの行政に求められるというふうに思います。

ただ、福祉、医療、教育、文化、全てが採算が取れるということではないのが、行政の役割だということをぜひ念頭に質の高い報道をお願いしたいと思います。以上です。

◆NHK

質の高いとおっしゃいますが、質の低い報道をしているというご認識ですか。

◆市長

そんなことを言っていません。さっき言ったように、深い報道をしてほしいということに、だって「赤字垂れ流しがひどい」という視聴者からの反応というのは、私の意図が正確に伝わっていないというふうに思いますので…

◆NHK

中心展示物がレプリカであることも含めてひどい、という意見が寄せられていますが…

◆市長

それは受け止めさせていただきます。

◆NHK

また、おいおい、お願いします。

◆司会

その他、いかがでしょうか。発表案件について、よろしいでしょうか。

では、幹事社質問に移りたいと思います。SBSさん、よろしく願いいたします。

◆SBS

幹事社SBSです。すいません、引き続きよろしくお願いします。

◆市長

はい。

◆SBS

二つ、実は提出させてもらったのですが一つにまとめさせていただきたいと思っております。

先週末に行われた静岡の参院補選の所感と、これが今週末の衆院選にどんな影響を与えるというふうにお考えなのか、そして、この衆院選後の政治に期待すること、この辺り

お話しいただけますか。

◆市長

わかりました。所感として、やっぱり第一に思うのは投票率が上がらなかったことが残念であります。県全体の投票率が45.57%、静岡市は40.59%にとどまりました。

これは、先ほどワクチンの接種について若い方々がたいへん打ってくれたということの評価しましたけど、この選挙については、若い方々、10代、20代の投票率が極めて低かったということが、とても気になります。市の選挙管理委員会でも、県と連動しながら啓発活動をしておりました。

今度の日曜日は第1回のSDGsサミットとあって、若い方々が公共意識を持とうよ、というような場をつくっております。やっぱりまちづくりとか、行政とか政治に、自分も社会の一員として若い方々が自覚をしてもらおうという、いわゆるシチズンシップ教育というの、もっと必要だなというのが、今回、私が感じた所感であります。

◆SBS

すいません。それで、参院補選が今週末の衆議院選にどんな影響を与えるのか、その辺のお考え、聞かせていただけますか。

◆市長

それは記者さんのほうが、いろいろ分析をされているんじゃないかなというふうに思います。私は行政の長でありますので、言うならば、とにかく参議院補欠選挙は行かれなかった方々も、今回の衆議院選には、ぜひ投票に行っていたいただきたいということと呼びかけたいというふうに思っています。

◆SBS

そうすると、衆院選に期待することとしては、もっとみんなが政治参加をして投票率を上げてほしいというのが一番期待されることということになりますか。

◆市長

おっしゃる通りです。

◆SBS

その後の政治について期待することがあれば。

◆市長

政治、国政、安定してほしい、ということです。やっぱり国政が安定しないと、この

コロナ対策、自治体にしわ寄せが来ます。朝令暮改とまでは言いませんけれども、ずいぶん、国の方針の変更により与野党の厳しい対決が国政でありましたので、これは政治家として見れば、やむを得ないことかと思えますけれども、でも、ずいぶん、国がワクチンの接種ということを従前より、どんどん打ち出したことによって当初の計画の修正を、我々、余儀なくされてきたということをはじめとして、さまざまな職員の負担の増大というのを招きました。そういった意味でも国政の安定というものを私は求めたいなというふうに思っています。

◆SBS

そうすと、いわゆる安定がもたらす順調な連携、そういったものを期待されているということで…

◆市長

おっしゃる通りですね。地方創生という方針は打ち出してもらいますので、それは継続して欲しいですし、また、その中での国と地方自治体との風通しの良さということもお願いしたいと思えます。

幸い、今、全国市長会の中で、私、防災担当の副会長という立場をいただいていますので、そういった意味でも基礎自治体と国、政府との連携ということの大切さを実感しているところであります。

◆SBS

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

その他、ただいまの幹事社質問に関連した質問があれば、お受けしたいと思いますが、いかがでしょうか、よろしいでしょうか。それでは、その他のご質問をお受けしたいと思います。読売新聞さん、お願いいたします。

◆読売新聞

読売新聞社です。市議会の9月定例会の最終日に、自民党の幹事長が上程議案に対する賛成演説をされました。その中で、コロナ禍で凍結している歴史文化施設（注：海洋文化施設）と清水庁舎の問題についても、速やかに対応を示すことが求められるとおっしゃいました。

与党からの、この申し入れとか提案に対して市長としては対応されるおつもりは、おありでしょうか。

◆市長

厳しい賛成討論をいただいたなというふうに受け止めております。ご主張というのは、やっぱり受け止めなければいけないなというふうに思っております。

◆読売新聞

では、いずれということですね。

◆市長

そうですね、申し訳ございません。

◆司会

その他、いかがでしょうか。NHKさん、お願いいたします。

◆NHK

たびたびすみません。NHKです。桜ヶ丘病院について、先日、住民説明会、内野院長のほうで対応されました。この説明会は、市長のほうからJCHOがもっと発信してほしいということ促されたことも受けてのことだと思いますが、お聞きのように、やはり厳しい意見、特に移転経緯に関する質問が相次いで、内野院長は「そういったことを私からは答えられない」ということで回答は控えられて、さらに不満の声が上がるという流れがありました。内野院長も不満を持たれた方が多かったかな、という印象だということが終わった後におっしゃったんですけれども、改めて、この移転経緯を説明できる、市として住民に対する説明会を開くお考えはないのか、この説明会の様子、雰囲気、お聞きになった所感も含めて、お聞かせください。

◆市長

この長い、これまでの清水桜ヶ丘病院の問題について、その当事者である経営主体であるJCHOさんが自ら説明会を開いてくださったというのは、私は大きな一歩だったなというふうに思います。その説明内容、とにかく最初に市民運動の方々が、一丁目一番地とおっしゃったのは、「津波想定域に病院を移転するなんていうのは、いかななものか」ということでありました。それに対して、私どもも、その一つの懸け橋としてJCHOの方に「こういうふうなことに懸念をしている市民がいらっしゃるの、ぜひ検討してほしい」ということを要請しました。それに対してJCHOも「全国に50を超える系列病院があるので清水ばかり特別扱いできないよ」という立ち位置だったのですけれども、その中でJCHOの本部、尾身会長、また、新しく派遣された静岡出身の内野院長と、だんだんコミュニケーションを交わし信頼関係ができ、そして、今回、

全事業費の 20%を防災対策に充ててくれるというようなことで、当初は予定になかったホバリングスペースも造るというようなことまで決めてくれました。それを今回、自ら説明をされたということは、大きな一歩だったなというふうに思っています。

◆NHK

今のは所感の部分だと思いますが、翻って移転経緯について、市として、あるいは、市長ご自身が住民に対して説明会を開くお考えはないか。

◆市長

これは、この前申し上げたとおり、私自身が、この定例記者会見で、議会の本会議で、あるいは広報しずおかを通じた媒体等々で説明はしてきたつもりであります。

◆NHK

ごめんなさい。住民に直接説明して、質疑を受ける場を設けるお考えはないということでしょうか。

◆市長

今回も報告をもらっていますけれども、住民の方々が、どの程度いらっしゃるのか、最初は私が市長になる以前ですけれども、旧清水市の 13 万人を超える方々から「撤収させないでくれ」と、とにかく清水の医療体制を守るために、社会保険庁の国営の病院から JCHO という半官半民の組織になって先ほどの話と同じですが、経営効率、病院で赤字を出さないように、ということが JCHO の方針だったわけです。そういう中で清水は整理の対象だったわけですよ。

だけど、何とか 13 万人を超える方々から署名をもらったので、市も行政も協力をするから、とにかくこの 13 万人の署名を受け取ってほしいと、そして、清水から撤退しないでほしい」ということを、これ、私の初仕事だったですね、市長になっての、そういうことで、JCHO に言って検討してもらったわけです。そうしたならば「撤収を、やっぱり経営の事業性と採算性ということも含めて我々も考えなきゃいけない」ということはありながらも、清水の皆さんの医療体制で今まで一翼を担ってきたという自負もあるから、「わかりました。ただし社会保険庁が旧清水市からあっせんされて買った大内新田、高部地区の土地では、なかなか交通アクセスも悪くて成り立たないということなので、ぜひ交通アクセスのいい中心市街地に新たな土地を紹介してくれないか、提供してくれないか」ということが条件で、撤収ということは存続ということで切り替わって今に至るわけですね、だから、そういう大局的な大きな歴史の中で、こういうことになったということを知っていただきたいなというふうに思います。

不幸に 3.11 が起こってしまったので、それ以降、やっぱり津波の想定域だという懸念

を多く持たれてしまった方々がいらっしゃる、ただ、そういう方々に私どもも説明をしてきて、おおむね「分かったよ」「そうだよね」ということをおっしゃっていただく市民の方々も多く私の元に寄せられておりますので、そういう大きなバランス感覚の中で、ぜひ判断していきたいなというふうに思っております。

◆NHK

すいません。質問にお答えいただけなくて、もどかしいんですけども、市長が住民説明会を、あるいは市として住民説明会を開くお考えはあるのか、ないのか。イエス、ノーだけでもお願いします。

◆市長

ありません。

◆NHK

わかりました。ありがとうございます。

◆司会

それでは、終了の目安の時間を過ぎておりますので、本日は、ここまでとさせていただきます。次回は11月9日、火曜日、11時からの予定となっております。